

## 令和3年度 学長戦略経費（公募型プロジェクト）研究成果概要報告書

経費の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 共同研究推進経費 <input type="checkbox"/> 若手教員研究支援経費
プロジェクトの名称	多層連携による職能機能強化のマネジメントのあり方 ～Ed. D. 型の博士課程づくりを基底に～
報告者氏名・所属・職名	北海道教育大学教職大学院函館校 特任教授 中村吉秀
プロジェクト担当者氏名・所属・職名	北海道教育大学函館校 准教授 山口好和 北海道教育大学附属函館中学校 副校長 白川 卓 北海道教育大学附属函館中学校 主幹教諭 富尾 拓
<b>研究内容及び成果の概要</b>	
<p>教職大学院・教育委員会・附属学校との多重連携による職能機能強化のマネジメントのあり方を見出すために、多様な学びの場を整理した。そして、地域の学校教員の実践をさらに昇華させる機能としての「Ed. D. 型の博士課程」構想づくりを広げていきたいと考えた。</p> <p>成果としてとは下記に2つ示す。</p> <p>① 行政、附属中学校、教育大学、教職大学院に所属する4名による直接の「対話」を試みた（テーマ：「これからの学校教育の在り方」について）。北海道教育大学函館校の大会議室で、1回目（5月29日）、2回目（6月12日）、3回目（6月26日）、4回目（7月3日）の計4回を実施した。それぞれの立場から多様な視点で意見・考えの交流を実施した。コロナ感染拡大のため、対面での協議がほとんどなくなり、協議に対する閉塞感を少しでも、和らげる意味での試みである。そして、これからの教育現場にとって必要となっていく「Ed. D. 型の博士課程」の考えを広げるためのベースづくりと捉えた。この直接の対面による協議は、それぞれの信頼感を醸成し、マネジメントの強化を図っていくことが広がっていた。そのような考えをもとに論文として整理し、教職大学院の研究紀要及び臨床教育学会実践事例検討部門で発表した。</p> <p>② 「協働的な研究体制」「カリキュラムマネジメント」等の概念を、個別・具体的な地域課題と適切に結びつけながら議論できる環境を整えつつ、協働探究的なコミュニティを組織し、活動を継続した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・函館市中学校校長を対象とした研修会「学びのコミュニティづくり」の推進 実施日：1回目（11月20日）教職大学院演習室にて 2回目（12月17日）附函館中教育実践棟にて 3回目（1月14日）附属函館中教育実践棟にて「北海道教育庁学校教育監 鈴木 淳 氏」を講師としての講演会</li> <li>・函館市中学校教頭を対象とした研修会「ハコトーク」の推進 1回目（1月10日）附属函館中教育実践棟にてコロナ感染拡大を受け、継続的な実施につなげることができなかった。</li> </ul> <p>このような研究の推進と多様な研修等の設置は、私たち教職大学院の教員の力量アップにもなる。そして、多重的な連携の継続化は、「信頼関係」を醸成させる契機にもなる。また、教職大学院が中心となって、地域行政や附属学校をつなげ、職能機能を強化する研修を提案し続けることは、地域教育の向上を促し、子供たちの資質能力の育成につながっていくと考えており、成果につながっていたと考えている。</p>	
<b>成果の公表の状況</b>	
<p>【著書】</p> <p>【学術論文】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中村吉秀 山口好和 加賀重仁 白川 卓『教育の意義・方向性を見つめ直す環境とは 一緩やかな読書と素朴な対話・語り合いを通じて一』北海道教育大学大学院高度教職実践専攻研究紀要第12号 2022年3月 pp161～168</li> <li>・中村吉秀 山口好和 北海道臨床教育学会第11回研究大会自由研究発表（実践事例検討部門）『「これからの学校づくり」を見据えた対話環境とは 一立場を離れての素朴な語り合いを通じて一』2021年7月</li> </ul>	
<b>教育現場で活用可能な分野・教材等</b>	
配布又はダウンロード可能な資料	
問い合わせ先	代表者：中村 吉秀 電 話：0138-44-4318 FAX   ： mail   ：nakamura.yoshihide@h.hokkyodai.ac.jp